

介護保険事業計画策定委員会会議録

令和2年度第1回策定委員会

招 集 年 月 日	令和2年8月20日
招 集 の 場 所	国東市役所本庁
開 会	令和2年8月20日 14時00分～ 16時30分
出 席 委 員	瀬田和夫 大上文紘 寺岡剛 麻生拓之 楳本定秀 齋藤純 野邊靖基 疋田利恵 定村智章 高橋とし子 坪井竜一 河田研吉 宮本季生 徳丸由美子 宮永英次 医療保険課長（オブザーバー）
職務により出席した者の職・氏名	小川課長 鈴木参事 平本係長 溝部係長 中川補佐 河野主幹 後藤主任保健師 林副主幹 神田主査 吉武主事 東主事
	<p>司会 溝部係長</p> <p><input type="checkbox"/> 策定委員紹介 今回、2名の委員の方が前任の方を引き継いでご出席いただいていますので紹介します。 シルバー人材センター代表の 瀬田和夫様、 東部保健所国東保健部代表の 疋田利恵様 です。 失礼ながら、委嘱書は事前に配布していますので、ご確認ください。 また、今まで委員長として綾部委員にお願いしていましたが、昨年度、シルバー人材センターの理事長を退職されました。ご紹介をした通り、瀬田理事長がご出席をいただいています。委員は前任を引き継ぐとありますので、委員長も瀬田理事長にお願いしたいと思います。委員の皆様、いかがでしょうか。 ～賛同を得る～ ありがとうございます。 それでは、瀬田委員様、委員長席のほうに移動をお願いいたします。</p> <p><input type="checkbox"/> 開会あいさつ（小川課長）</p> <p><input type="checkbox"/> 委員長あいさつ（瀬田委員）</p> <p>議事（溝部係長） 報告事項 国東市介護保険事業計画等策定委員会設置規則第5条第2項の規定により、本日の出席委員は11名ですので、委員定数15名の過半数を超えていますことを報告いたします。</p> <p>司会 瀬田委員長 （1）第8期保険事業計画に係る国の基本指針（案）について ・第8期保険事業計画に係る国の基本指針（案）（参考資料1）（小川）</p>

(2) 第7期介護保険事業計画の進捗状況と評価について(資料2-1)

1. 支え合い活動の推進、高齢者見守り施策の推進(溝部)
2. 認知症施策の総合的な推進(後藤)
3. 高齢者権利擁護の推進(河野)
4. 在宅生活を支える施策の推進(吉武)
5. 世代間を超えた健康づくりの推進(平本)
6. 自立支援、介護予防重度化予防の推進(神田)
7. 医療と介護の連携による継続的な支援(平本)
8. 安心できる住まいの確保、住環境の整備(溝部)
9. 介護サービスの質の向上、福祉、介護人材の確保、育成(吉武)

人口と被保険者数・確定率の推移、給付費の推移、保険料について(資料2-2)(林)

[質疑応答]

裙本委員

「1. 支え合い活動の推進、高齢者見守り施策の推進」について。インセンティブという言葉が使われていますが、具体的なイメージが湧かないので、インセンティブになる仕組みづくりなどについて詳しく説明していただけますか。

溝部係長

「①支え合い活動」での活動に対して、有償ボランティアやボランティアポイント制の導入などによって、活動する方の意欲や、モチベーションを上げるための効果的な取り組みという意味で、インセンティブとさせていただきました。

裙本委員

「2. 認知症施策の総合的な推進」について。尊厳のある生活を支援するという事で事業をしているわけですが、行方不明になったとか緊急時のみの対応だけではなく、認知症患者の日常生活を支える取り組みも必要かと思えます
認知症サポーター養成について目標は達成しているとなってますが、今後何か地域で活動できるサポーターを目指すということですが、何かお考えがあるのでしょうか。

後藤主任保健師

各地域で活動できるサポーターということで、認知症の方やその家族を支える地域づくりの中で、認知症に対する理解を深めたり、地域の中での支え合い・交流の場の支援等で、サポーターが活動できればと考えております。

裙本委員

何か具体的に考えていらっしゃいますか。

後藤主任保健師

具体的には「認知症カフェ」が現在2か所であり、目標としては市内4か所を計画していますので、そういったところにボランティアとして協力していただくことを考えています。

裙本委員

最初に言った、日常生活を支える取り組みもぜひ考えていただ

きたいと思います。

「3. 高齢者権利擁護の推進」について。成年後見人制度はなかなかハードルが高いというか難しい問題があるんですけども、高齢者に対しての通販であるとか、押し売り等は電話勧誘が多いと思うので、高齢者のいる家庭には電話の自動録音装置を設置すれば、被害が減るのではないかと思います。

「くにさき半島地域成年後見支援センター」は設置されてから1年経たないということですが、いつできたものでしょうか。

河野主幹

昨年の4月から活動を開始しております。

裙本委員

「4. 在宅生活を支える施策の推進」について。小規模多機能型居宅介護事業所の整備数は目標が市内3か所となっていますが、果たして3か所で足りているのかどうかですよね。少なくとも旧町に1か所ずつ、面積の広い国東、国見には2箇所は作らないと、自宅近くで様々なサービスを受けるといふのには程遠いと思うので、目標を見直しをしたほうがよいのではないかと思います。

「5. 世代間を超えた健康づくりの推進」について。各課が横断的に事業を分担して行っているということで連絡会議を開いているということですが、出席率はどうなんでしょうか。関係部署全てが出席しているんでしょうか。

平本係長

連絡会議が始まった当時は栄養士が所属している部署の栄養士のみが参加していましたが、令和元年度から保健師と栄養士が所属している部署が全て集まる場を活用しておりますので、医療保健課、市民健康課、包括支援センター、その他部署の保健師も全て参加して検討しています。

裙本委員

回数だけでなく、出席率もわかるようにしていただきたいと思います。

また、お達者年齢について、平均寿命とお達者年齢の差が縮まれば縮まるほど良いということですが、平均寿命の伸びに対してお達者年齢の伸びという比率で考えたほうがより正確になるのではないかと思います。

「6. 自立支援、介護予防重度化予防の推進」について。フレイル予防ということで今年度から後期高齢者検診でフレイルの項目が入ってきたんですが、これを積極的に利用する計画はどうなっていますか。

神田主査

担当である市民健康課と連携がとれないか。という話はしております。具体的にどうしていくかは検討中です。

裙本委員

せっかく始まった制度なので活用していただきたいと思います。

「7. 医療と介護の連携による継続的な支援」についてお聞きします。病院の敷居が高いというのは以前から言われていたことなんですが、私が思うのはケアマネジャーがあまりにも多忙すぎるのではないかと感じています。最近介護保険制度が変わってから業務が非常に多くなったと聞いております。連携が取りにくいというのは、その多忙さが一番の要因かと思うので、ケアマネジャーの負担を減らすような施策を考えていただきたいと思います。

「8. 安心できる住まいの確保、住環境の整備」についてお聞きします。養護老人ホームの定員数は100人で足りているんでしょうか。待機者や、市外の施設に入っている人はいないんでしょうか。入りたくても入れないという話をよく聞くんですが、いかがでしょうか。

溝部係長

養護老人ホームの待機者は直近の情報では4名いらっしゃいます。ケースによっては市外の養護老人ホームの入所希望もあります。現在長い期間待たずに入所できていますので循環できている状況です。また、在宅でのサービスを利用しながら養護老人ホームを待っているケースがあるようです。

裙本委員

今後85歳以上の方が増え需要も増えていくので、現在4人待機ということですが、今後定員を増やすということも考えないといけないと思うんですが、介護人員の不足という問題もあるので在宅もなかなか難しいというのがありますので、養護老人ホーム定員数の見直しのほうも考えていただきたいと思います。

「9. 介護サービスの質の向上、福祉、介護人材の確保、育成」についてお聞きします。人員不足というのは本当に深刻な問題になっているようで、人数だけでなくスキルの問題もあり、喀痰吸引等研修も行っているということですが、実績だけでなく各施設に何人、介護職員全体の何パーセント等の目標があったほうが達成評価とかしやすいと思います。それと目標に近づいたとあるが、何を持って近づいたという判定になったのでしょうか。

吉武主事

介護職員等雇用状況実態調査を実施して、現在の介護人材不足の実態把握と課題が抽出できたことと、補助事業を今年度から始めたことで、介護人材不足の解消に近づいたのではないかとということ、この評価にさせていただいております。

裙本委員

事業を始めても実態が伴わないと。介護人材不足を解消するための事業であって、解消されつつあるということで初めて近づいたといえるのではないかと。現在本当に足りていない状況なので、これで目標に近づいたというのは違う気がします。

大上副委員長

民生委員さんが聞いた困り事、悩みの相談で一番多いのは、近所付き合いについてです。私たち民生児童委員協議会はまちづ

くり、地域づくりというのは支えあう人づくりなんだ。人間関係作りなんだ。という視点で意思統一を図っています。地図上の地域・町を作るのではない、そこに住む人たちの人と人との心のつながりを大事にしていく、そういう形でないと、本当に人は人を支えられないのではないか。特に今のようにコロナ禍、あるいは災害、こういうときに至って私たちはどう支えあっていけばいいのか。ますます高齢化は進みます。そういう意味でより効率のあるものを作っていけたらいいと思います。

感謝しているのは地域包括支援センターの方々に大変ご支援をいただいて、困ったことがあれば包括に言えばいいというようなところもあって申し訳ないとは思っています。

抱えている認知症の人々に対して適切に対応し、家族への支援の輪を広げ、施設入所につなげていただいたり、親子のつながりを強めていただいたり、本当にすばらしい活動をしていただいていると思います。これが地域の人々とつながると良いと思うんですね。

ある認知症の方が来られたときに「あの人は何もできん、これもできん、あれもできん」、私のところに言ってくるのはみんなそういうケースです。「あの人は病気なんだからわかつちよくれ。みんな支え合おうえ。」と声をかけるが、どうもうまくいきません。「支え合える事」みんな支援できる体制作りが必要なのではないかと思っています。

高橋委員

「7. 医療と介護の連携による継続的な支援」について。先ほど楯本委員がおっしゃったようにケアマネジャーが忙しすぎるというのは本当にその通りだと思っております。「介護支援専門員による事業評価アンケート調査」の17ページ⑬地域ケア会議にケアマネジャーたちの苦痛な叫びが現れています。提出書類の軽減ができませんか。また、急を要する事案もケア会議で承認を得てからでないといけないとか、非常に苦労があるんですね。全部残業で提出書類を書いているのが実情です。国で決められた書類もあると思いますけれども、ケアマネジャーたちの声を取り入れながら、市独自として簡素化する取り組みを進めていただきたいと思っています。

「9. 介護サービスの質の向上、福祉、介護人材の確保、育成」について。令和2年度から奨励金を出して頂けるようになり、本当にありがたいと思います。うちでも2名、1年後にもらえるのを楽しみに頑張っている職員がいます。現在、新型コロナウイルスの影響で仕事がない方もたくさんいるので、もっと国東市ではこういう制度があって、こんな支援ができますよというのをいろんな場面でPRしていただいて、介護に少しでも目が向けられるようにしていただきたいとありがたいなと思います。今まで、不景気になると介護人材が増えるという感じだったので期待していたんですが、全く増えないんですね。ぜひ、PRしていただきたいと思っています。

裾本委員 人材が増えない一番の要因はコロナだと思います。医療・介護が敬遠されているのが反映しているんだと思います。

河田委員 現在ケアマネジャーの業務が日々煩雑になってきており、今回の法改正でもワークサポートケアマネという、介護離職を防ぐ為に家族の方にそういった取り組みを紹介するような業務までものしかかろうとしています。「介護支援専門員による事業評価アンケート」の3ページを見るとわかるように、年齢区分が40代が4分の1ということで、僕は43歳なので40～44歳の13.3%の中に入らんですが、2040年には63歳になるんですね。業務に対してモチベーションが下がっているわけではないんです。それだけ社会に求められているということで使命感は燃えているんですが、体は一つしかないもので、なかなか質の向上に向けた取り組みができないというところもあります。予算の関係もあると思うので無理を承知で発言させていただきますが、「9. 介護サービスの質の向上、福祉、介護人材の確保、育成」の奨励金の対象にケアマネジャーを入れてほしいです。今回すぐには難しいとは思いますが、ケアマネジャーが「頑張っただけ」ということを形で示していただけるような取り組みやインセンティブを検討いただけたらと思います。

「2. 認知症施策の総合的な推進」について。成果目標の民生委員・児童委員アンケート調査で上位に「本人（家族）が問題とっていない」という項目が上がってきているんですが、外に示した言葉や、外から見えるものがそういう状態に見えても、実は発信できないだけで、孤立して問題を感じているという本人さんやご家族もいらっしゃいます。「第8期に向けた改善策（案）」の「当事者や家族、地域の方が地域の中でつどえる交流の場の支援を行う。」とあるが、実は一番問題を抱えている方はこういった場になかなか足を運ぶことができない方なので、もう少し積極的なアウトリーチがかかるような施策を含んでいったほうがいいと思います。

正しいと思うことを示しても関係性のない人の意見は通らないんですね。関係性をつないでいけるような技術や姿勢が必要だと思います。何が今後一番医療的に、また生活を支える上で正しいと思える選択だとこちらが示しても、本人にとってそう思えなければ解決にはなかなかつながらない。相談に向かう専門職の方々の相談援助スキルが上がるような研修体系であったり、本人や家族の声をもう少し吸い上げられるような場を取り込んでいくと、解決に向かうご家族が増えるのではないかと思います。

宮本委員 ひとつ気になったのは老人クラブと一緒に何かするということが出てこないんですね。サロンと老人クラブが一緒になって行っていることが多いので、老人クラブの話が出てこなかったのだと思います。老人クラブも取り組みがたくさんあり、介護予防等、一緒にできることがあるのではと思うので、検討していただきたいと思います。

小川課長 施策の評価シートについては主な事業のみ記入しているのですが、詳細は事業評価シートに記入しており、そこで老人クラブについても記入しております。今後も一緒に介護予防について考えていきたいと思います。

今皆さんからご指導、ご助言をいただきました。特に介護人材の部分で、ケアマネジャーの人材不足解消についてどうするかという意見が多く上がっておりました。これについては、今年度見直しの期間の中で、ケアマネジャーのインセンティブが働くような奨励金を前向きに検討していきたいと思います。

地域ケア会議も週1回というペースで行っている中で様々な課題が出てきておりますので、この機会に見直ししながら様式の簡素化等も検討していきたいと思います。

認知症の方のアウトリーチにつきましてもサポーターがせっかく養成講座を受けてくださっているのに、何かしたいというときになかなか地域の中でそういった活動をする場がないというのが正直なところではございますので、そういう部分の養成や研修をしながら、サポーターとの連携ができるように、国では「チームオレンジ」という言い方をするのですが、そういう部分を目指して、そういう方々が自宅に見守り活動を行えたり、傾聴ボランティアとして介護者を支えるようなことができていけたらと考えていますので、そういう部分を第8期に向けて力を入れていきたいと思っています。

大上副委員長 ケアマネジャーさんの人数が少ないんじゃないですか、高齢者支援を行う上で大変じゃないですか。包括支援センターの抱えるケースがどんどん増えていくし、訪問活動も大変だろうと思うし、今のままで十分なんだろうかいつも思うんですが。

小川課長 確かに、地域包括支援センターの職員がなかなか確保できないという部分で、大分県下で地域包括支援センターを直営でやっているのは国東市と姫島と日出町と佐伯市です。ほとんど民間委託になっている中で直営でやっているからこそこの人数が確保できている状況もございます。他市との均衡もあるんですが、できる限り職員体制を強化していきめ細やかな支援ができる体制は維持していきたいと思っています。

大上副委員長 もうひとつはですね、連携していただきたいんですね。情報共有をできるといいなと思います。一度包括支援センターのほうにお願いしたら、あとはこちらでという感じになりました。そのあたりは民生委員として一番難しいところで、困るところだというのが本音です。連携を強めていただければありがたいと思います。

小川課長 ありがとうございます。お互いに連携したいんですけど、そこで個人情報との兼ね合いで、情報共有が困難な事例が出てき

ておりますが、それについてはこちらにも連携したいという意思で、民生委員さんのほうに示すことが重要と考えておりますので、今後とも連携を強化していきたいと思っております。

大上副委員長

できる限り力になりたいと思っております。よろしく申し上げます。

宮永委員

被保険者の立場からお願いしたいと思っております。今コロナ禍で大変な時期なんですけど、私どもも上国崎のささえあい事業も4月からほとんどストップしている状況です。被保険者の立場からすると、介護保険料が現在5300円で県下では低い方にはなっているんですけども、この状況からいくとたぶん下がることはないだろうと思うんです。これ以上上げてくれるな、というのが本音です。ましてや今、政府のほうからも一律10万円が配布される一方でこれ以上保険料が上がっていったのでは生活が困る、困窮するということもありますので、ぜひ今5,300円ですが、これ以上上がることをないように努力をしていただきたいと思います。国のほうにもコロナ禍の影響で困窮している中で、これ以上保険料を上げてくれるなということ、県知事会を通じてでも挙げていただきたいと思います。このコロナ禍の影響で、第8期に向けて事業計画そのものにも影響が出てくるのかどうかですね。ここを非常に心配しているわけで、これまでやってきていることが本当にできているのか、できていくのか、というのがあります。

もうひとつは、今私のほうも上国崎で地域支え合い活動を中心に行っているんですけども、これが一番参加と協働のまちづくりの支え合い活動の核になっているんだと思っております。先ほど、大上副委員長からも連携という話がありました。私どももこの支え合い作りにあらたにカフェという名前を付けているんですけど、このカフェの中でも健康教室を行ったり、介護予防の保健師に来てもらったりとか、そういった連携を取れているんですね。今6つの地区でそれができており全地域に広げるという目標があるのですが、6地区にとどまっている、全地域に広まらない原因がどこにあるのかというのをもう少しわかりやすく説明していただけたらと思っております。この地域支え合い活動がいろんなもので連携していっているんで、この「参加と協働のまちづくり」の4つの中目標の核になっているのだらうと思っておりますから、この方面にもう少し市として力を入れてやっていくべきだと私は思います。今私どもも元気で要支援・要介護にならないための努力はしているんですけども、やはり衰えたときにいったいどうするのかということが一番心配なんです。自分に介護者がいるのか、あるいは自分が望む施設に入ることができるのか、あるいはそうなったときに費用が足りるのか、そういった心配がずっとあるわけですね。ですから、全地域に支え合い活動の場を確保してほしいと思っております。これが全てだと思いますので、ぜひお願いしたいと思っております。

小川課長

上国崎のほうで積極的に取り組んでいただきありがとうございます

ます。コロナ禍が第8期の計画に影響があるのかといえば、おそらく影響は出てくるだろうと思っております。なぜかという
と、どうしても自粛ということで、活動が低下していく中で、
フレイルが進んで、要支援者が増えていくのではないかという
懸念を持っています。介護予防を推進していこうと思っても、
密になってはいけないとかそういったことがあるので、ジレン
マを感じているところでございます。ですから少なからず第8
期計画の中でコロナ禍の影響の部分は考えていかなければなら
ないと思っておりますが、幸いにも国東市は基金を持っております。
宮永委員が言われるとおりの、年金生活者の方々がこれ以上
経済的に生活が大変にならないように、基金を思い切って取
り崩して保険料のほうに充てていく時期が来たかと思ってい
るところです。

支え合い活動が広がっていかない原因なんですが、正直なところ
なかなか分析ができておらず、社協のコーディネーターとも
いろいろ話しているのですが、やはりコーディネーターのマン
パワー不足がどうしてもあるのではないかと考えています。そ
こで、元地域おこし協力隊で国東市に住んで地域づくり活動
をしている方々を、コーディネーターと一緒にできるような補佐
役として配置できないか検討し、マンパワーの強化をしていき
たいと思っております。そういうことで少し横展開がスムーズ
にいくような体制を取っていきたいと考えています。それぞれ
の地域の中では、いろいろな支え合い活動をしております。そ
のような活動をしているところにもう少しくみ細やかなアプ
ローチを掛けていってそこから地域づくりが広がれるように
していきたいと思っております。

(3) その他

- ・令和2年度地域密着型サービスの公募状況について（吉武）
- ・老人憩いのあり方について（溝部）
- ・今後のスケジュール（溝部）

瀬田委員長 それでは本日の議事につきましては、これで終了といたしま
す。

司会 溝部係長

□ 閉会あいさつ（小川課長）

瀬田委員長、議事進行ありがとうございました。

これで令和2年度第1回介護保険事業計画策定委員会を終わります

閉会